

注 意 報

長崎県病虫害防除所長

平成30年度病虫害発生予察 注意報第1号

いちご ハダニ類

1. 発生地域 (対象地域) 県内全域
2. 発生程度 多
3. 注意報発令の根拠

- (1) 本虫については、平成30年2月5日付け平成29年度病虫害発生予察注意報第10号の発表後も発生が増加傾向にあり、4月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は31.0%(平年7.6%)、発生圃場率92.6%(平年43.2%)と平年より高かった(図1、2)。今後、圃場内での発生拡大や育苗床への持ち込みの恐れがある。
- (2) 気象予報(福岡管区气象台、平成30年4月12日発表)によると、向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

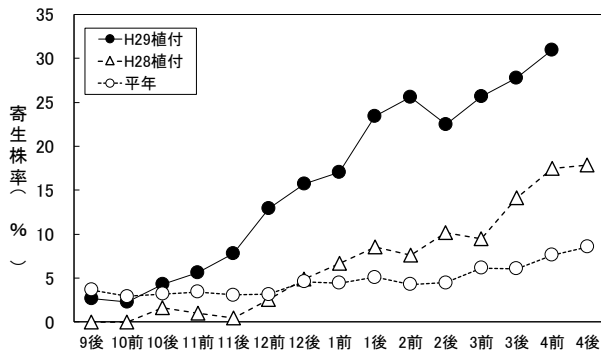


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
平年:H19~H28の平均値(最大・最小除く)

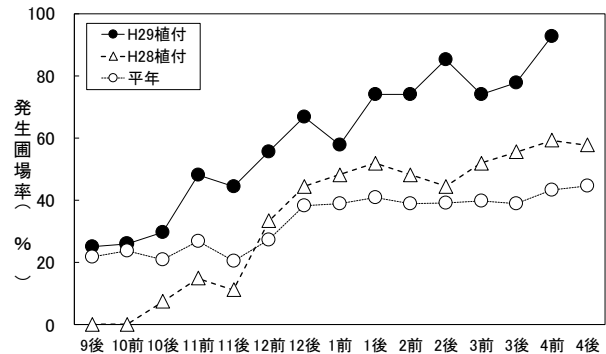


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
平年:H19~H28の平均値(最大・最小除く)

4. 防除対策

- (1) 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすいため、農薬が葉裏まで十分かかるように留意する。なお、古葉を摘葉後に防除すると効果的である。
- (2) 既に多発している圃場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回散布する。
- (3) 薬剤感受性が低下しやすいので、系統の異なる薬剤(平成30年長崎県病虫害防除基準P214~217の「作用機構による分類(IRAC)」参照)をローテーション散布する。
なお、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤は、卵に対する効果が低いので5~7日おきに連続散布を行う。
- (4) 天敵(チリカブリダニ等)を放飼している圃場は、発生状況に応じて天敵に影響の少ない殺ダニ剤を使用する。

- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
- この情報に関するお問い合わせ
長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

